

## 「つくば市教育大綱」は学校生活とどうつながっている？

### 春日学園の 8・9 年生と森田充教育長が語り合いました



つくば市では、「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を最上位の目標としたつくば市教育大綱を 2020 年に策定し、「教えから学びへ」「管理から自己決定へ」「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」という理念のもと教育改革を進めています。

もしかすると、市民のみなさんの中には、「これまでと何が変わったの？」「具体的にどんな授業を行っているの？」と疑問に思っている方もいらっしゃるかもしれません。そこで、つくば市の学びに関わる人たちにインタビューをして、改革の一端をお伝えしていくことにしました。

この記事では、つくば市立春日学園義務教育学校の 8 年生・9 年生 8 人と森田充教育長の座談会をお届けします。生徒に教育大綱を読んでもらい、考えたことや疑問に思ったことを教育長に伝えてもらいました。

## みんな、どうやって挑戦できるようになったの？

森田教育長: こんにちは、つくば市教育長の森田です。みなさん、つくば市教育大綱に目を通してくれたそうですね。感想や、印象に残ったことを教えてもらえますか？

生徒: 「つくばの教育の柱」のページで「自己を知る」「他者を知る」「社会を知り働きかける」と対象が自分から少しずつ外に広がっているのを見て、「社会で大きなことを成し遂げるには、まずは身近なところから取り組む必要があるんだな」と思いました。

### Ⅲ つくばの教育の柱

#### 「問いから始める学び」

知識の教え込みではなく、自己・他者・社会を探究する学びを目指す。

##### ① 「自分自身は何者なのか」（自己を知る）

強み・弱み・得意・苦手・好きなこと・興味があること・成長したこと  
(他者と比較した評価ではない)、自分の将来ヴィジョン、持続可能な世界のために何ができるのか、などを問いながら、自分自身の人生を幸福に生きる自由、つまり自己決定権（人生のオーナーシップ）を手に入れる。

##### ② 「周りは何者なのか」（他者を知る）

どんな人物なのか、得意なことは、苦手なことは、すばらしいところは、などを問いながら、多様な存在と関わり合い、他者の価値を認め、それぞれの強みを活かしながら協働する力を手に入れる。個性、性別、障害、国籍、宗教、文化などの全ての違いに目を向ける。

##### ③ 「社会をどうやってつくるのか」（社会を知り働きかける）

自分はどんなまちに生きているのか、つくばにはどんな歴史や魅力があるのか、地球環境からどんな恩恵<sup>おんけい</sup>を受け生きているのか、など自己・他者・自然との関係性によってつくり出される環境と社会に目を向け、より良い社会をつくっていくために必要な学びの機会を得る。

生徒:「遊びによる、非認知能力を高める学び」というフレーズが印象に残りました。春日学園では前期ブロックリーダーの4年生、後期ブロックリーダーの9年生が主体となり、学年を超えてみんなと一緒に遊んでいます。それによって責任感やリーダーシップが育まれていると感じます。

生徒:私も勉強より遊びが好きなので、遊びによって非認知能力を高めるという考え方はすごいなと思いました。

生徒:学校を「子どもが自らつくる場所」に転換する、と書かれていて、大人の発想だけでなく、子どもの発想も取り入れて問題に取り組むのは大事なことだと感じました。



生徒:遊びの面でも学びの面でも目指すべき方向がたくさん書かれていて、教育大綱はこれからのつくばの発展の鍵になるのではないかと考えました。

生徒:プロジェクト学習への言及がありますが、春日学園でも「つくばスタイル科」の時間でプロジェクト学習に取り組んでいるし、国語や社会などの教科でもグループ学習を行なっています。非認知能力を高めることを踏まえた学びが進んでいると感じます。

生徒：子どもも大人もひとりの対等な人間として、ともに成長して挑戦していくことが大切なんだと感じました。

生徒：前期課程生の頃は失敗が怖くて新しいことに挑戦できなかったけど、後期課程生になってから少し怖さが軽減されたと感じています。「挑戦が称賛される場所」という文章を読んで、教育大綱によって学校の雰囲気が変わったからなのかもしれないと感じました。

## V つくばが目指す「学び」の場

つくばが目指す学びを実現するために、  
学びの場についても転換を進める。

### ① 学びたくなる場所

学ぶことは楽しいことだと体感し、こどもが通いたくなる学校、学びたくなる社会をつくる。日常生活の中で感じたことや疑問、いつもの遊びなどが「学び」につながり、この学びの種が次の学びへの意欲を引き出すことで、学びの循環じゅんかんが生まれる。

### ② こどもが自らつくる場所

大人はこどもの目線に立ち、こどもの発想を認め、大切にすること。大人はこどもを管理するのではなく、主体的に問題に取り組むことを支援する。

### ③ 挑戦が称賛される場所

挑戦することは、リスクを負うこと、自分の知っていることと知らないことを明らかにすること、失敗しても回復し前進することを学ぶきっかけとなる。大人も積極的に挑戦し間違まちがい（大人の無謬むびゅう<sup>(8)</sup>性からの脱却だつきゃく）ことから考え学ぶ。挑戦や成功を目指しての失敗は周囲から称賛しょうさんされる。安心してリスクを取れる環境の中で挑戦と失敗を繰り返しながら、自ら変化を生み出す経験こうていをすることで自己肯定感こうてい<sup>(9)</sup>を高めていく。

[つくば市教育大綱](#)より抜粋

森田教育長：みなさん、素晴らしいですね。いま「挑戦ができるようになった」と言ってくれたけど、つくば市の子どもたちにアンケートを取ると、「挑戦しようとする気持ちをもって、さまざまなことに

取り組んでいる」という項目があまり高くないんだ。失敗するのは怖いと思うけど、やってみないと伸びないから、どんどん挑戦してほしいと思っているんだけどね。みなさんの経験から言えることはありますか？



生徒：私の場合、部活動が少人数で関係性がすごくよかったから、挑戦しやすい雰囲気があったんです。まずそういう環境でやってみることで、少しずつ大きなことにも挑戦できるようになりました。段階を踏めたことがよかったのかもしれません。

生徒：生徒会選挙に出たとき、全校生徒の前でスピーチをするために内容をたくさん考えてたくさん直して、ということを繰り返したので、「あんなにやったんだから大丈夫」と自信ができました。自分で自分を後押しできるようになることが大事だと思います。

生徒：仲間の存在も大事なんじゃないかな。失敗したときに慰めたり励ましたりしてくれる仲間がいたから、僕はいまここに立っているんだと思います。

森田教育長：自分と向き合うことで、あるいは周囲の人がいてくれることで、挑戦する勇気が出るんだね。そういう話を聞くとうれしくなっちゃうな。ありがとう。

## みんなの意見を取り入れることで発想が広がり、議論が深まる

森田教育長：つくば市では「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を目標として、「教えから学びへ」「管理から自己決定へ」「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」という考え方を大事にしています。平たく言うと、「先生が一方的に教えるんじゃなくて、子どもたちが自分から学んでいけるようにしよう」「先生がなんでも決めちゃうんじゃなくて、子どもたちが自分で物事を決めて行動できる力を育もう」「テストの点数だけじゃなくて、やり抜く力や挑戦する力などにも目を向けよう」ということだね。これについてはどう思う？

生徒：去年の担任の先生が、「英検に挑戦する」と言って、朝の自習時間に単語帳をめくって勉強していたんです。そういう姿を見ることで、私たちも刺激を受けました。先生の仕事のメインは教えることだと思いますが、一方的に生徒に教えるだけじゃなくて、生徒と一緒に学んで挑戦する存在に変わってきているのかなと感じています。

## Ⅱ つくばで目指す考え方の転換

近代公教育が抱えてきた課題を踏まえ、  
考え方の転換を目指す。

---

- ① 「教え」から「学び」へ  
一斉・一方向教育から個別・双方向の学びへ
- ② 「管理」から「自己決定」へ  
受動から能動へ
- ③ 「<sup>にんちのうりよく</sup>認知能力<sup>(3)</sup>偏重」から「<sup>へんちよう</sup>非認知能力<sup>(4)</sup>の再認識」へ  
知識偏重の教育から<sup>ぜんじん</sup>全人教育<sup>(5)</sup>へ

[つくば市教育大綱](#)より抜粋

生徒：先生は普段は優しく励ましてくれるんですが、僕が苦手な教科でひどい点数を取ったとき、ちゃんと叱ってくれました。僕はどちらかというと叱られて伸びるタイプで、そういうところを見抜いてくれたのかもしれませんが。一律で同じように接するんじゃなくて、一人ひとりに合わせた対応をしてくれているんだなと感じました。

生徒：生徒会活動をするときも学級委員として活動するときも、先生たちは進め方やルールを私たちに任せてくれています。それが自己決定につながるのかなという気がしました。

森田教育長：うんうん。最近教育現場では、生徒が主体となって学校のルールを決めていく「ルールメイキング」という取組が注目されています。私も「幸せな人生を送るには、いろんなルールを自分たちの手でよりよいものにしていく力が必要だ」と思って、数年前に先生たちに「子どもたちにルールを考えてもらおう」と呼びかけました。その第一歩としてタブレットなどの機器の活用方法をみんなで話し合っ決めてもらったんだけど、その後もいろんな場面で生徒たちがルールを決める文化が育っているようで、うれしく思っています。



森田教育長：さっきプロジェクト学習の話が出たけど、みなさんにはぜひ狭い学校の中だけでなく、地域社会や世界に関心をもって、自分の問いを見付け探究してほしいと思っています。プロ

ジェクト学習がそういう場になったらいいなと思うんだけど、どうでしょうか。

生徒:プロジェクト学習は、調べたことをみんなの前で発表するから自分の考えも深められるし、周りの人の意見を知ることでもあるから、多面的に物事を見るのに役立つなと感じています。

森田教育長:ああ、すごくいいことを言ってくれました。**自分の考えをまとめて人に伝えることはもちろん大事だけど、人の意見に耳を傾けて取り入れることも同じくらい大事だよね。**みなさんは、人の意見によって自分の考えが広がる経験をしたことはありますか？

生徒:社会の授業で、「こういう出来事が起こったのはなぜか」という問いをもとに、グループで話し合って意見をまとめて発表する時間がありました。同じことについて考えたはずなのに、発表の度にどんどん「あ、たしかに！」と思う意見が出てきて、それが印象に残っています。

生徒:体育祭の実行委員をしたときに、「自分だけで決めると見落としていることがあるかもしれない」「楽しめない人がいるかもしれない」と思って、ほかの委員の意見と照らし合わせて、いいと思う点を全部取り入れました。そうすることで、よりよい体育祭にできたと思っています。

生徒:部活で友達の練習風景を見てると自分に足りないところに気付くことがあります。練習方法を取り入れたら自分の能力も上がったし精神的にも強くなったので、言葉だけでなく行動も見習うことが大切だなと感じています。

生徒:海外から来たクラスメイトと話していると、日本だったら当たり前のことが海外では違っていたり、その逆もあったりして、会話するだけで刺激を受けます。

生徒:学級委員を務めていたとき、最初は自分たちだけで話し合って物事を決めていたけど、先生のアドバイスを受けて、クラスごとにちゃんと意見を聞いて、そのうえで全員が納得いくような答えを見付けようという話し合いをしました。

森田教育長:みんなで話し合うと、発想が広がるよね。4年生の担任をしたとき、雪国の暮らしを学ぶ授業で児童に意見を聞いたら、雪下ろしや除雪など「雪国って大変だよね」という話ばかりが出てきてね。でも、生徒のひとりが「スキーは雪がないとできないじゃん」と言ったらみんなハッとして、そこから雪国のいいところがたくさん挙がったんだ。

**ひとりが思いきって違う意見を言って、ほかの人がその声に耳を傾けると、そこから新しい発見が生まれ議論が深まる。**社会に出てもそういうことってたくさんあるから、いろんな意見を大事にしてほしいと思っています。

## 先生は、生徒の非認知能力をどう評価するのか

森田教育長：つくば市教育大綱を読んで疑問に思ったこと、私に質問したいことはありますか？

生徒：7 ページの「いま必要なこと」に「学ぶ環境の整備」と書かれていますが、今後、学校に新しい施設を作ることも考えていますか？

森田教育長：実は、春日学園もそういう発想で作った学校なんですよ。いろんな学びができるスペースがあるでしょう。さらに加えるとしたら、「一人で静かに勉強したい」という子のニーズに応える部屋だったり、ロボットのプログラミングができたり 3D プリンタがあって自由にものづくりができる部屋もつくりたいね。それにはお金もかかるから難しい側面もあるけど、子どもたちが自ら学べる環境を支えていきたいと考えています。



生徒：5 ページに「多様な文化と質の高い芸術、自然、蓄積された高度な科学技術など、つくばの恵まれた環境を活かし実物や実体験を通して学ぶ」と書かれていて、たしかにつくばにはそういうところがあるなと思いつつ、僕からするとあまり自然も科学技術も身近に感じられていないのが正

直なところですよ。学校の中にそういう施設があるといいのかなと思ったのですが、どうでしょうか。

森田教育長：そうかそうか。それで言うと、学校内にそういう施設をつくろうという考えはないんです。だって、地域にたくさんあるわけだから。たとえばダイヤモンドのことを知りたいと思ったら、産業総合研究所の地質標本館に行けば、いろんなことが分かります。そんなふうに、つくばの子どもたちには、自分が興味をもったことに対して、学校外へ調べに行ったり、インタビューをしたり、実験したりしてほしいなと思っていて、先生たちにも「**教室だけで学ばせちゃだめだ、社会の中で学ばせよう**」と話しているんです。でも、まだまだそういう働きかけが足りていないのかもしれないね。大事な視点をありがとう。

生徒：自分の非認知能力を自覚して挑戦することは大事だと思いますが、先生は生徒の非認知能力をどう評価するのでしょうか。一人ひとりのやる気ややり抜く力を見るだけでなく、成長過程もちゃんと見ていかないと、ちゃんと評価できないんじゃないかなと思います。

森田教育長：鋭いね！ それはすごく大事なところであり、先生も悩むところなんだ。生徒は一人ひとりみんな違うし、それぞれいいところをもっているから、先生には「テストの点数」みたいなひとつの物差しだけで生徒を評価せず、いろんな面を見てほしい。そう思って「非認知能力を大事にしよう」と言っているけど、じゃあそれをどう評価するかと聞かれると本当に難しいんだよね。

ただ、今言ってくれたように、先生が生徒一人ひとりのいいところを把握して、「この子のこういうところがこんなふうに伸びていったらいいな」という目線を持ちながら１日１日しっかり見つめて、「こんなところがいいね、成長したね」とフィードバックすることが大事なんじゃないかと思っています。そうすることで本人も自分の非認知能力を自覚できるし、いいところを伸ばしていけるんじゃないかな。本当に大事な質問でした、ありがとう。

## これから挑戦したいこと

森田教育長：最後に、後輩に向けたメッセージと、これからの自分の目標を語ってもらおうかな。

生徒：後輩のみんなには、春日学園のいいところを引き継ぎつつ、それをさらにレベルアップさせてほしいです。数年後に、めっちゃすごい学校になっているといいな。自分自身は、自分磨きというか、内面をもっと磨いていきたいです。

生徒：僕はテニス部で、初心者から始めて少しは勝てるようになって引退できました。後輩たちに

も自分なりの練習法を見付けてもらいたいし、強くなって驚かせてほしいです。今は受験を控えていて勉強があるのであまり自由時間がないのですが、高校に入ったらこれまでできなかったこと、興味のあることに全力で挑戦したいと思っています。

生徒：春日学園はほかの学校とは違って1年生から9年生まで一緒に学校生活を送っているという特徴があるので、縦割り活動やレクリエーションなど異学年交流をもっと増やしてもいいんじゃないかなと思います。私自身はピースフォーラムを通して考えた戦争や平和についてもっと探究し、広めていきたいです。



生徒：何かにチャレンジしたいと思ったら、勇気をもって踏み出してほしいです。少しの勇気があれば前に進むことができるし、そこからは自分の意志が背中を押してくれるはずです。高校では、これまでと同じようにいろんなことにチャレンジして、自分を成長させていきたいと考えています。

生徒：後輩たちには、学園生活を通して自分の長所や友達のいいところをどんどん見付けて、お互いに切磋琢磨しながら成長してもらいたいです。高校では自分の好きなことを極限まで極めたいと思っています。

生徒：僕は先輩たちからさまざまなことを学んだので、後輩たちにも、自分の後輩に背中を見せて

ほしいなと思います。自分自身は、つくばの自慢は山ほど言えるので、それをいろんな人に伝えていきたいです。

生徒：私たち生徒会役員の大事な仕事は、生徒一人ひとりが自分で考え行動できるように後押しすること、そういう環境を整えることだと思っています。9年生になってからも後輩たちと一緒に頑張っていきたいです。



生徒：私は生徒会や部活を通して新しい考え方ややり方を見付けられたので、後輩たちにもいろんなことに挑戦してほしいです。生徒会として取り組みたいことは、みんなが自分の意見をちゃんと伝えるようにすることです。恥ずかしさや不安な気持ちで意見を言いにくいと感じている人もいると思うので、環境を改善してよりよい学校にしていきたいと考えています。

森田教育長：ありがとうございます。みなさんがすごくいきいきと学校生活を送ってくれていることを感じました。春日学園の生徒たちは、何事にも真剣で、楽しそうで、とてもいい表情をしているんだよね。来る度に「充実した学校生活を送れているんだろうな」と感じていたけど、今回みなさんの口から聞くことができてよかったです。教育大綱でやろうとしていることは間違っていないな、と実感しました。

私の夢は、「つくばのすべての学校を、みんなが楽しく学べて幸せに過ごせる学校にすること」です。教育長として、がんばってその夢を実現させたいと思います。みなさんもがんばってください。応援しています。



#### ■つくば市教育大綱

[https://www.city.tsukuba.lg.jp/material/files/group/7/kai\\_kyouikutaikou.pdf](https://www.city.tsukuba.lg.jp/material/files/group/7/kai_kyouikutaikou.pdf)

(企画／つくば市教育局学び推進課、一般社団法人 HatchEdu 執筆／飛田恵美子 撮影／神明篤志)